

マイクロマシン／MEMS 分野関連 経済報告 2023 年 8月号

2023年8月1日
(一財) マイクロマシンセンター
<https://www.mmc.or.jp/>

マイクロマシン／MEMS 分野を取り巻く経済・政策動向のトピックをいろいろな観点からとらえて発信しています。今月の経済報告をお届けします。

掲載内容

1. 全般動向 (内閣府発表 景気動向指数より)
2. 各経済指標
 - ・内閣府公表 月例経済報告 より
 - ・内閣府公表 設備投資 (機械受注統計調査報告) より
 - ・経済産業省公表 鉱工業指数調査より
3. その他の動向

1. 全般動向

■ 景気動向指数 (改訂値) 結果 (内閣府、経済社会総合研究所 発表より抜粋)

令和5 (2023) 年5月分速報からの改訂状況 (令和5(2023)年7月26日発表) より

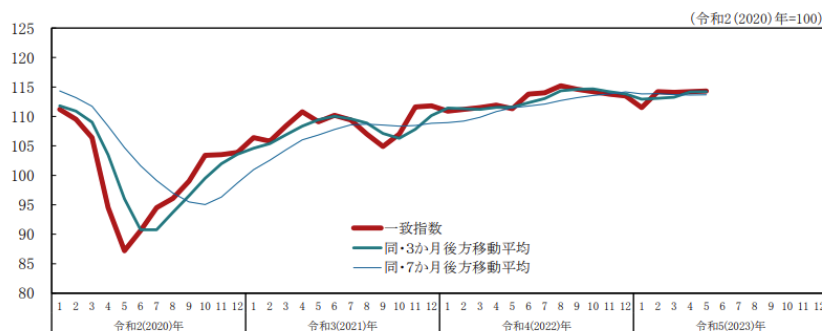
▶ <https://www.esri.cao.go.jp/jp/stat/di/202305rsummary.pdf>

- ① 5月分CI (令和2(2020)年=100) (改訂値)は、
先行指数：109.2、一致指数：114.3、遅行指数：106.9

	5月分C I (令和2(2020)年=100)	
	速報	改訂
先行指数	109.5	109.2
一致指数	113.8	114.3
遅行指数	106.1	106.9

- ② 一致指数の基調判断
景気動向指数 (C I 一致指数) は、改善を示している。

一致指数の推移



▶ 内閣府「景気動向指数」関連 TOP ページ :

<https://www.esri.cao.go.jp/jp/stat/di/di.html>

▶ 参考 - 景気動向指数「令和5 (2023) 年4月分 (速報) (令和5年7月7日公表)」 pdf :

(概要) <https://www.esri.cao.go.jp/jp/stat/di/202305psummary.pdf>

(速報資料) <https://www.esri.cao.go.jp/jp/stat/di/202305report.pdf>

2. 各経済指標

■ 月例経済報告（7月）（内閣府、令和5年7月26日 公表）

（「月例経済報告等に関する関係閣僚会議資料」より抜粋）

▶ <https://www5.cao.go.jp/keizai3/getsurei/2023/07kaigi.pdf>

< 日本経済の基調判断 >

（現状）【判断維持】

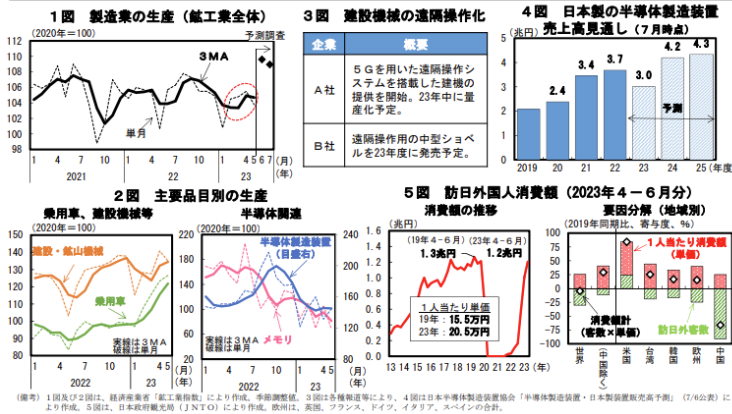
- ・ 景気は、緩やかに回復している。

（先行き）

- ・ 先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、世界的な金融引締め等が続く中、海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

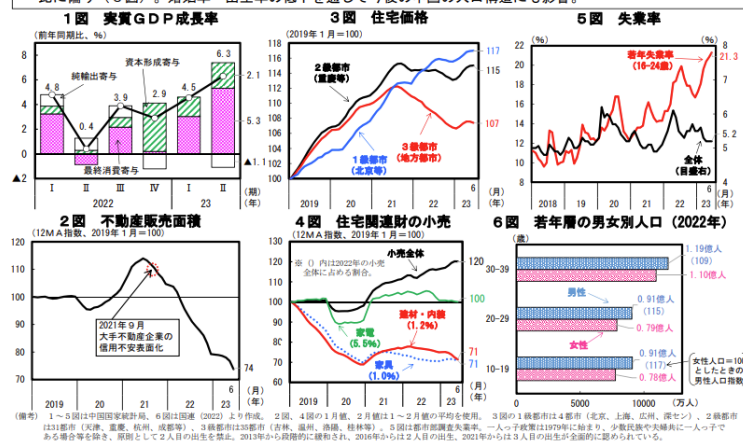
今月の指標(2) 生産と輸出の動向

▶ 製造業の生産は持ち直しの兆し（1図）。供給制約の緩和等を背景に、乗用車や建設機械等が増産基調となるほか、市況の悪化による弱さが続いてきた半導体関連業種も横ばい（2図）。
 ▶ 建設機械では遠隔操作システム搭載機の販売が予定され（3図）、半導体製造装置は今年度を底に来年度以降に増産が見込まれる（4図）など、生産用機械工業では先行きにも期待感。
 ▶ インバウンド消費は、コロナ禍前の水準をほぼ回復（5図）。中国等の客数回復は道半ばだが、一人当たり消費額が大きくプラスに寄与。



今月の指標(4) 中国経済の動向

▶ 4～6月成長率は前年比6.3%（1図）。ただし、前年4～5月に上海ロックダウンの影響があった点に留意。
 ▶ 不動産企業の債務問題が長期化する中、住宅市場は供給過剰と需要不足（投機の減少、買い控え、都市化の減速等）が顕在化。販売面積は減少が続く（2図）、住宅価格は地方で下落（3図）。住宅関連財の小売も低調（4図）。
 ▶ 若年失業率は過去最高水準で推移（5図）。これに加え、過去の一人っ子政策の影響もあり、若年層の男女比に偏り（6図）。婚姻率・出生率の低下を通じて今後の中国の人口構造にも影響。



- ▶ 内閣府「月例経済報告等に関する関係閣僚会議」TOP ページ：

<https://www5.cao.go.jp/keizai3/getsurei/kaigi.html>

- ▶ 内閣府「月例経済報告」TOP ページ：

<https://www5.cao.go.jp/keizai3/getsurei/getsurei-index.html>

■ 設備投資 令和5年5月実績：機械受注統計調査報告

(令和5年7月12日 内閣府 経済社会総合研究所 公表より抜粋)

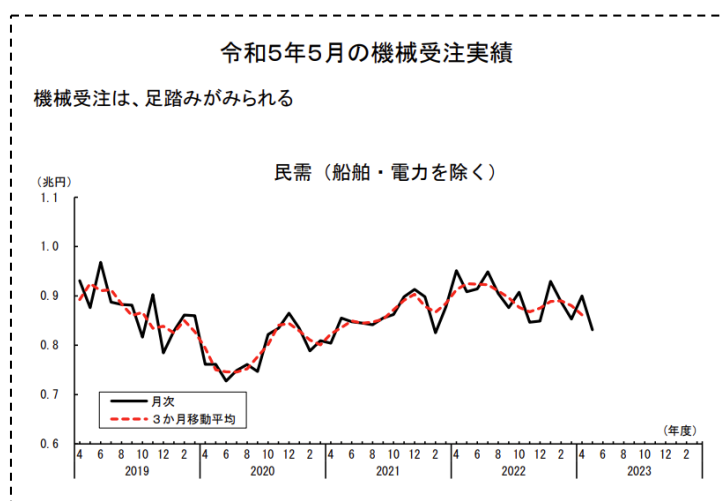
▶ <https://www.esri.cao.go.jp/jp/stat/juchu/2023/2305juchu.html>

調査結果の概要（季節調整値）：

1. 機械受注総額の動向をみると、
2023（令和5）年4月前月比11.5%増の後、5月は同2.9%減の2兆6,391億円となった。
2. 需要者別にみると、
民需は前月比5.3%減の9,794億円、官公需は同8.9%増の3,506億円、
外需は同12.0%増の1兆2,646億円、代理店は同20.4%減の1,045億円となった。
3. 民間設備投資の先行指標である「船舶・電力を除く民需」の動向をみると、
2023（令和5）年4月前月比5.5%増の後、5月は同7.6%減の8,315億円となった。
このうち、製造業は同3.2%増の4,230億円、非製造業（除く船舶・電力）は同19.4%減の3,934億円となった。

(以下図表は「令和5年5月の機械受注実績 概要（PDF版）」より抜粋)

▶ <https://www.esri.cao.go.jp/jp/stat/juchu/2023/2305gaiyou.pdf>



対前月（期）比 (単位：%)

期・月	2022年 (令和4年)			2023年 (令和5年)		2023年 (令和5年)			
	4-6月 実績	7-9月 実績	10-12月 実績	1-3月 実績	4-6月 見通し	2月 実績	3月 実績	4月 実績	5月 実績
受注総額	16.6	△9.3	△1.0	△8.7	6.3	△0.8	△2.8	11.5	△2.9
民需	9.5	△1.9	△8.3	7.1	2.8	3.1	△12.3	8.5	△5.3
〃（船舶・電力を除く）	6.7	△1.6	△4.7	2.6	4.6	△4.5	△3.9	5.5	△7.6
製造業	5.7	△2.8	△10.6	1.9	△0.6	10.2	△2.4	△3.0	3.2
非製造業（除く船・電）	6.9	△0.4	2.1	3.2	9.2	△14.7	△4.5	11.0	△19.4
官公需	4.0	△8.4	△3.6	19.9	9.3	45.8	△15.5	6.8	8.9
外需	22.6	△12.8	2.4	△21.4	8.7	2.3	△10.5	12.3	12.0
代理店	10.4	△3.7	1.4	0.1	△5.0	△6.8	5.4	8.6	△20.4
民需（船舶電力を除く） 3か月移動平均	-	-	-	-	-	0.2	△1.1	△2.1	-

(備考) 1. 季節調整値による。季節調整系列は個別に季節調整を行っているため、需要者別内訳の合計は全体の季節調整値とは一致しない。
2. △印は減少を示す。
3. 見通しは2023年3月末時点の調査。

▶ 参考-機械受注統計調査報告（本文）（令和5年5月実績）

<https://www.esri.cao.go.jp/jp/stat/juchu/2023/2305juchu-1.pdf>

▶ 内閣府「経済社会総合研究所 統計表一覧：機械受注統計調査報告関連」TOP ページ：

<https://www.esri.cao.go.jp/jp/stat/juchu/juchu.html>

■ 鉱工業指数(生産・出荷・在庫、生産能力・稼働率、生産予測指数)

～製造業の動きから見る日本の景気～ (経済産業省 2023年7月31日発表)

【2023年6月分】鉱工業指数の動向(速報)より抜粋

- ▶ https://www.meti.go.jp/statistics/tyo/iip/result/pdf/press/b2020_202306sj.pdf
- ▶ https://www.meti.go.jp/statistics/tyo/iip/result/book/b2020_202306sj.html

ー 生産は緩やかな持ち直しの動き ー

- ・ 今月は生産、出荷は上昇、在庫、在庫率は低下であった。
- ・ 製造工業生産予測調査によると、7月は低下、8月は上昇を予測している。
- ・ 総じてみれば、生産は緩やかな持ち直しの動きで推移している。

・生産は、前月比2.0%の上昇。

上昇業種：自動車工業、電子部品・デバイス工業、汎用・業務用機械工業等
低下業種：石油・石炭製品工業、パルプ・紙・紙加工品工業、
輸送機械工業(除、自動車工業)等

・出荷は、前月比1.5%の上昇。

上昇業種：自動車工業、輸送機械工業(除、自動車工業)、
電子部品・デバイス工業等
低下業種：電気・情報通信機械工業、生産用機械工業、石油・石炭製品工業等

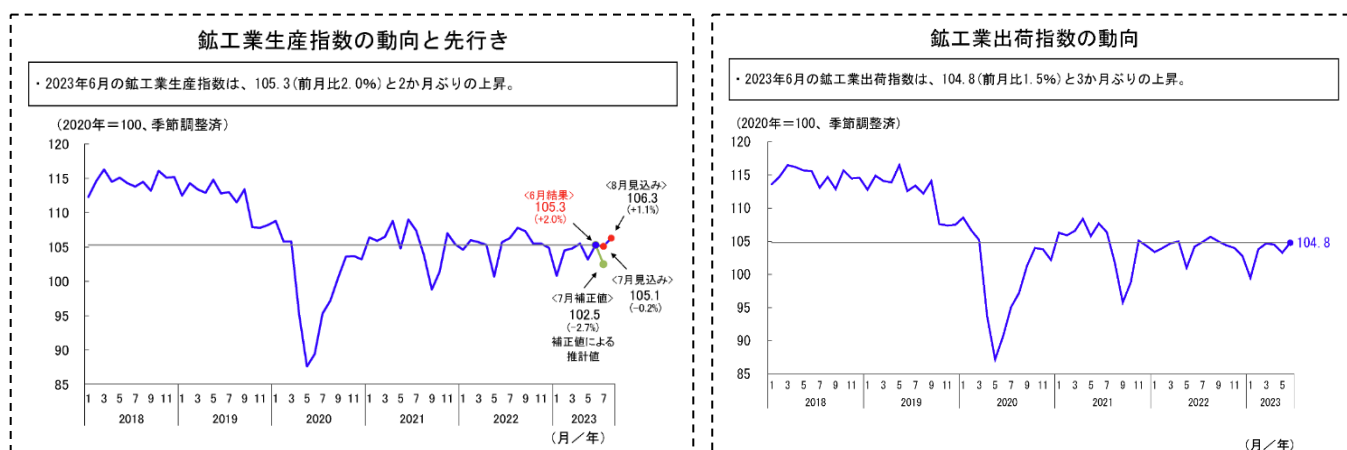
・在庫は、前月比-0.1%の低下。

低下業種：自動車工業、鉄鋼・非鉄金属工業、金属製品工業等
上昇業種：電気・情報通信機械工業、電子部品・デバイス工業、
石油・石炭製品工業等

6月の「最新指数の解説」より抜粋

- ▶ https://www.meti.go.jp/statistics/toppage/report/archive/kako/20230731_1.html

(解説) 6月の鉱工業生産は、海外・国内向け双方での販売が堅調であることなどを受けて、自動車工業等が上昇したことなどから、全体として前月比2.0%と、2か月ぶりの上昇。基調判断は、「生産は緩やかな持ち直しの動き」に据え置き



詳細は以下の経済産業省 ホームページをご参照下さい。

鉱工業指数(最新の)「結果の概要」:

- ▶ <https://www.meti.go.jp/statistics/tyo/iip/result-1.html>

3. その他の動向

■ 電子部品グローバル出荷統計

(一社) 電子情報技術産業協会 (JEITA)、2023年7月31日発表より抜粋)

【2023年5月動向概況】

- ・ **2023年5月のグローバル出荷額は**
3,364億円、前年比98.0%となり、前年比マイナスとなった。
- ・ **品目別出荷は**
受動部品 (前年比93.3% 1,621億円)、接続部品 (同96.3% 805億円)、
変換部品 (同98.2% 472億円)、その他の電子部品 (同122.7% 464億円) となった。
- ・ **地域別出荷は**
日本 (前年比104.2% 673億円)、米州 (同107.4% 436億円)、
欧州 (同112.8% 423億円)、中国 (同89.8% 1,091億円)、
アジア・その他 (同93.2% 735億円) となった。

1. 月別出荷金額 (2023.07.31発表：毎月更新)

電子部品出荷額 (億円)	2023年度						2023年度累計	
	4月		5月		6月		4月-5月	
	金額(億円)	前年比 (%)	金額(億円)	前年比 (%)	金額(億円)	前年比 (%)	金額(億円)	前年比 (%)
世界計	3,305	95	3,364	98			6,670	96
(日本)	771	107	673	104			1,444	105
受動部品	1,527	88	1,621	93			3,149	91
コンデンサ	1,084	89	1,158	92			2,242	90
抵抗器	154	95	150	95			304	95
トランス	43	107	44	111			88	109
インダクタ	217	85	227	91			444	88
その他	27	63	41	96			69	79
接続部品	765	96	805	96			1,571	96
スイッチ	312	103	338	111			650	107
コネクタ	449	91	462	87			912	89
その他	3	134	4	124			7	129
変換部品	542	104	472	98			1,014	101
音響部品	23	102	22	108			46	105
センサ	183	89	190	95			373	92
アクチュエータ	335	115	259	99			594	108
その他の電子部品	469	110	464	122			934	116
電源部品	239	139	244	137			483	138
高周波部品	230	91	220	109			451	99

2. 地域別出荷金額

地域別出荷金額 (億円)	2023年度						2023年度累計	
	4月		5月		6月		4月-5月	
	金額(億円)	前年比 (%)	金額(億円)	前年比 (%)	金額(億円)	前年比 (%)	金額(億円)	前年比 (%)
グローバル	3,305	95	3,364	98			6,670	96
日本	771	107	673	104			1,444	105
米州	387	96	436	107			823	101
欧州	348	102	423	112			771	107
中国	1,044	91	1,091	89			2,136	90
アジア他	751	88	735	93			1,487	90

詳細は以下の **JEITA (電子情報技術産業協会)** ホームページをご参照下さい。

▶ https://home.jeita.or.jp/ecb/information/info_stati.html

以上